

風力発電施設が野鳥に与える影響 ー風車建設前と建設後の調査についてー

浦達也¹・北野雅人²・中津弘

(1. 日本野鳥の会、2. 北海道大学環境科学院)

地球温暖化対策として近年、世界的に再生可能エネルギーの導入が進んでおり、その中でも風力発電はコストが低く発電効率が良いため、また資源量も豊富なために各国で導入が進んでいます。国内でも地球温暖化対策推進大綱に従って導入が進められており、現在では約 1500 基の風車が立てられています。

しかし、国内で風力発電の導入が進むにつれ、風力発電機に野鳥が衝突して死亡する事故である、バードストライクの発生が報告されるようになってきました。海外の研究ではバードストライクに遭いやすいのは猛禽類とされており、2009 年 3 月末日現在で国内で分かっている希少猛禽類ではオジロワシ 19 例、イヌワシ 1 例、ミサゴ 1 例の事故が起きています。そのほか、トビでは多数の被害が起きています。

バードストライクを発見するのは、事業者が発電機の保守点検に訪れた際か、通りがかりの一般人が発見するのがほとんどです。風車建設後にどれだけのバードストライクが起きているかを評価するための調査は法律や条例で義務付けられていないため、我々が知っているのは実際の被害のうち、氷山の一角に過ぎないと考えられます。また、風車建設前の調査、つまり環境アセスメントも法律で義務付けられておらず、事業者による自主調査、または一部の県の条例によって行われているだけです。

この自由集会では、実際に修士課程での研究や自主的に事前や事後の調査に関わった方々からその方法や結果について直接お話を聞き、今後は国内でどのような調査が必要か討議し、また国内でも海外のように一つの研究テーマになりえるか考えていきたいと思えます。

【話題提供者】

- 浦 達也 (財団法人 日本野鳥の会・自然保護室)

「風車建設前と建設後の影響評価方法 ー海外の事例よりー」

- 北野雅人 (北海道大学環境科学院・現竹中工務店勤務)

「苫前の風力発電施設におけるバードストライク発生要因の解明」

- 中津 弘

「青山高原 07 三重県の風力発電所での衝突死体探索の調査結果」

- そのほか、事前調査の例について発表を予定

* 話題提供者、タイトル、順番等に変更する可能性があります。